

2025 年 2 月 7 日
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平
担当ワーキンググループ主査 林 希一郎

マダガスカル国アンタナナリボ都市圏道路網整備事業（中環状西部区間）
（協力準備調査（有償））
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・ 日時：2025 年 1 月 10 日(金) 13:59～16:48
- ・ 場所：JICA 本部（2 階 202 会議室）及びオンライン
- ・ ワーキンググループ委員：阿部委員、石田委員、源氏田委員、林委員
- ・ 議題：マダガスカル国アンタナナリボ都市圏道路網整備事業（中環状西部区間）（協力準備調査（有償））に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・ 配付資料：
 - 1) 【事前配布資料】マダガスカル国アンタナナリボ都市圏道路網整備事業（中環状西部区間）（協力準備調査（有償））SC 案
 - 2) 回答表
- ・ 適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2022 年 1 月）

全体会合（第 165 回委員会）

- ・ 日時：2025 年 2 月 7 日(金) 14:00～15:06
- ・ 場所：JICA 本部（2 階 202 会議室）及びオンライン

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 湿地帯の多様な機能（生物多様性の保全、洪水調節・水の涵養・貯留・排水、レクリエーション、景観等）並びに本事業による湿地帯への影響を評価し、その結果を DFR に記述すること。

代替案検討

2. 計画道路が住宅地を通過する場合は、将来交通量から想定される住宅に対する騒音レベルに応じて、防音壁、植樹帯の設置等緩和策を検討し、その結果を DFR に記述すること。
3. 代替案検討の評価項目の「用地取得／住民移転」において、「大規模商業／業務施設」のウェイトが個人の住居のウェイトより大きく設定されている。これは、「大規模商業／業務施設」に雇用されている多数の人々への影響の大きさと、事例は限られるものの過去同市で実施した公共事業での「大規模商業／業務施設」と地域住民からの用地取得の困難さの違いを反映したものである。そのため、これら 2 点のウェイト付けの根拠情報を DFR に記述すること。
4. 代替案の比較検討プロセスの初期段階から実施機関の参加を確保したという利点を生かし、ステークホルダー協議を実施する際には、代替案検討のプロセス、特質及び留意点を協議参加者に十分に理解してもらえるように工夫をすること。

スコーピングマトリクス

5. アンタナナリボ市内では住民の上下水道へのアクセスが限定的であるため、対象地域の湿地や水路の水を生活や生計に利用している可能性が考えられる。このため、事業実施により住民移転等の影響を受ける住民の水利用について、今後の調査の中で確認し、影響予測・必要な緩和策等の検討を行い、その結果を DFR に記述すること。

以 上